

序

清雲俊元先生は、山梨郷土研究会理事長・山梨県文化財保護審議会会長・富士山世界文化遺産山梨県学術委員会委員長等の要職を歴任された学会きつての重鎮であり、郷土研究の深化と発展、文化財の保存等を通じて山梨の文化向上に大きな足跡を残されてきました。

とりわけ一九九六年に理事長に選出された山梨郷土研究会においては、会員の増強、研究者の育成、文化財・歴史環境の保護運動、県立博物館建設構想の推進を就任当初から目標に掲げて着々と取り組まれるとともに、講演会、シンポジウム、隣地研究会、県外史跡めぐりなど、新たな事業の実施・定着にもご尽力いただきました。講演会に招聘した講師は木村礎・網野善彦・色川大吉・永原慶二・五味文彦各氏など当代一流の歴史学者であり、広く日本全体を見据えたその講演は県内の郷土研究者に日本史の中に甲斐の歴史・文化を位置付けて評価する必要性を認識させるなど、非常に大きな影響を与えることになりました。

清雲先生の穏やかながらも時として毅然とした態度を醸し出すお人柄と豊かな発想力は、真言宗の名刹放光寺の住職を弱冠三十歳にして引き継ぎ、甲州霊場巡礼の会、精進料理、七福神めぐりなどを企図して、寺の経営改善に奔走された試練の日々をとおして育まれたものと推察しております。また、郷土研究への素養と情熱も、甲斐源氏一族の安田義定が創立し、国・県指定の諸仏を安置する放光寺に生れ育つたことによつて、幼少の頃から培われたのではな

いでしでしょうか。

理事長を退任される直前まで郷土研究会の行く末を案じ、研究会の魅力向上を目指してホームページの開設や事業の見直しなどを進められたその力量と信念、そして行動力には、計り知れないものがあります。理事長としての任期は二九年の長きに及び、二〇〇〇年に会長に就任した私が今日あるのも、先生のお力添えの賜物と深く感謝しております。

この間、先生は山梨県教育委員長や真言宗智山派議長も務められ生活は多忙を極めたとお聞きしていますが、郷土研究を中心とした諸業績により二〇〇二年に山梨県政功績者表彰を受けられたのに続き、二〇〇四年に社会功労章（文部科学大臣表彰）、二〇一五年には旭日雙光章を叙勲されました。清雲先生が本年七月二十六日に卒寿を迎えられることは誠にご同慶の至りであり、そのご功績を讃えるべく先生の学恩を受けた者一同であい計らい、昨年一月二十一日に清雲俊元先生卒寿記念論集刊行会を立ち上げ、郷土研究に焦点を当てた論集を編集・刊行する運びとなりました。

文献・考古・民俗・美術・宗教各分野の研究者三七名が執筆する論集の刊行は山梨県内ではこれまで例がないものであり、調査・研究や文化財の保護運動などを通じて先生と親交のあつた方々がいかに多いのかを如実に物語っています。寄せられた論文の内容は実に多岐にわたり、論集の構成を検討するのも大変な作業でしたが、出版を請け負っていたいただいた高志書院の濱久年社長のご尽力によって「Ⅰ 郷土研究の視座」「Ⅱ 信仰の世界」「Ⅲ 中世史研究」「Ⅳ 文化・芸術・技術」の四部構成にまとめることができました。書名の『甲斐の郷土史』は、まさに清雲先生の手込まれてこられた人生を象徴するものであり、本書の刊行が山梨はもとより全国各地の郷土研究のさらなる発展につながるよう願つてやまないとあります。

先生は今もなお、共著『真言宗智山派 放光寺』の改訂版出版を志すなど多忙の毎日をお過ごしですが、益々のご

壮健と後進のご指導を衷心よりお願い申し上げます。

令和七年五月一日

清雲俊元先生卒寿記念論集刊行会世話人代表

山梨郷土研究会会長 野口英一